

(5) 1人1台端末等のICTの活用

1人1台端末等のICTの活用は、クラウドによりICTの特性・強みを生かすことで一層効果を上げることができます。そのため、情報収集し、試行の繰り返しをして整理・分析し、情報共有を図り、表現するといったあらゆる学習場面において、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、積極的にICTを活用し、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが大切です。

まずは、授業における活用例です。課題解決に向かう探究的な学習の過程における「教師の活用」「子供の活用」「子供と教師の活用」を紹介します（各画像は、県HP『クラウドによる同時共同編集 授業づくり実践編』より）。

ICT活用の特性・強み

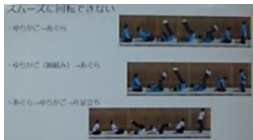
- ① 多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤
- ② 時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化
- ③ 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有（双方向性）

課題の設定

課題の設定については、子供が解決への意欲を高めるとともに、具体的な見通しをもって追究できるよう工夫します。例えば、教師が課題について情報を分かりやすく示す、子供が知りたい情報を自ら選ぶ、多様な疑問や気付きを共有し比較・整理する、などの場面での活用が考えられます。

教師の活用

子供の気付きを生むよう資料を工夫する



子供が動きの見通しのもてる資料を全員にクラウドで配付

子供の活用

対話から課題設定につながる問題に気付く



Web会議システムを活用し、対話の中から問題を見つける

子供と教師の活用

皆で探究すべき問題を意識化する



クラウドアンケートを用いて子供たちの問題意識を共有する

情報の収集

課題解決に必要な情報の収集は、子供自身で行うことが重要です。数値化される情報だけでなく、実際に足を運んで自ら感じ取った感覚的な情報も大切です。このような情報を整理し、改めて確認するためには、録音・録画したデータを振り返り、レポート等で言語化するなどの工夫も必要です。

教師の活用

支援が必要な子供を把握し、支援する



実験結果をクラウドで集め、表計算ソフトでグラフを提示する

子供の活用

多様な手段で多様に情報収集する



収集する多様な情報は再現可能なデジタルデータで記録する

子供と教師の活用

異なる視点からの情報を共有・活用する



蓄積された情報が多角的になっているか全員で確認する

整理・分析

整理・分析については、子供自身がつくったり収集したりした多様な情報を整理・分析して思考する活動へと高めていくことが重要です。例えば、多様な情報を「比較」「分類」「序列化」「関連付け」したり、つくったものをシミュレーションし分析したりする場面での活用が考えられます。

教師の活用

子供たちが整理・分析した改善策を確認



クラウドで、グループがまとめた作品の改善策を確認

子供の活用

シミュレーションツールを用いて試行し分析



グループで修正しながらつくった音楽を視聴し分析する

子供と教師の活用

異なる視点の分析で新たな問題に気付く



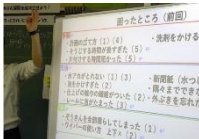
教科書本文の表現の工夫を比較し、疑問点を出し合う

まとめ・表現

まとめ・表現については、相手意識や目的意識を明確にするとともに、情報の再構成や新たな課題の自覚につなげることが必要です。また、校内のみならず国内外への情報発信により自分の考えを幅広く伝え、その効果を検証し、課題の更新につなげることに活用できます。

教師の活用

学習の過程を振り返り視点でまとめる



これまでの学習を振り返り、視点でまとめ、提示する

子供の活用

相手に伝わるように、まとめ・表現する



自分の製作品の自慢ポイントを互いにまとめて、発表する

子供と教師の活用

探究的な学習の履歴を集積する



探究の過程を振り返り、学習履歴として集積する

次に、授業以外の場面における活用例を紹介します。1人1台端末の活用は授業だけでなく、児童会や生徒会活動など子供たちの自主的な活動などを含め、学校のあらゆる場面での活用が期待されており、そのことが学校の教育活動の充実につながります。災害や感染症等の発生等により学校の臨時休業が行われる場合において、1人1台端末等のICTを活用した学習で子供たちの学びを保障するためにも、あらゆる場面での活用を進めましょう。

教師の活用

オンラインを活用した学活や学習を行う



教師の活用

保護者とオンラインで日程調整をする



子供の活用

係や委員会の相談をチャットで行う



子供の活用

自分のスケジュールを考える

